

臥竜塾セミナー2019①

21 世紀型保育のススメ

第112号 2019年4月22日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

臥竜塾セミナー2019

今年で5年目を迎える「臥竜塾年間講座」。

東京都にある、新宿せいが子ども園の職員の先生方が講師となり、
全国から40名程の先生方が参加する通年の講座です。

今年度は、藤森平司先生著の『21世紀型保育のススメ』をテキストに
1年間学んでいきます。

『21世紀型保育のススメ』は、2000年6月1日に出版され、
間もなく出版から20年が経とうとしています。

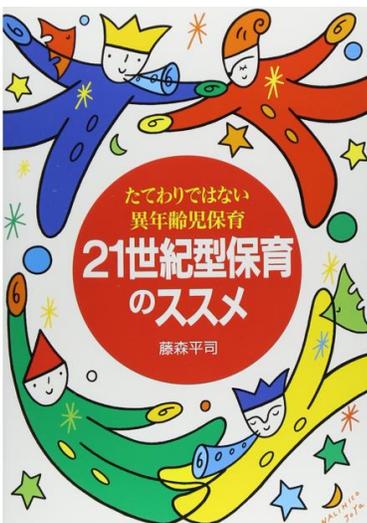
出版から20年が経つ今、テキストを参考に今の具体的な保育の
取り組みを見て、またディスカッションを通して学んでいく講座です。

本著誕生の経緯

「見守る保育」という言葉がまだなかった当時、この本が生まれたそう
です。異年齢やゾーンをする時に、他園の事例になればと、とある保育
業者に持ち込んだそうですが、取り合ってもらえなかったそうです。

そこで次に世界文化社さんに話をもち掛けたところ一度は断られたそう
ですが、絵本の付録として薄い冊子をつけているものがあり、そこに
連載することになったようです。

半年間掲載したら反響があり、もう半年伸び、1年間掲載した背景があ
り、12回の章立てとなっており、ページがそれだけでは足りないとい
うことで、Q&Aも書き加え、『21世紀型保育のススメ』が生まれた
そうです。





臥竜塾年間講座の様子

ちなみに、第1巻と表示がされていないのは、当初1巻で完結予定だったためのようで、世界文化社さんからは最初、「園全体の保育の形の取り組みなので、園長が保育を変えない限り、保育士さんは買わないのでは？」と思われていたようですが、その後も反響があり、2年も連載が続き12章。3巻目から書下ろしで原稿を書かれ、計5巻が出版された背景はこのようにあるそうです。

モンテッソーリ教育との違い

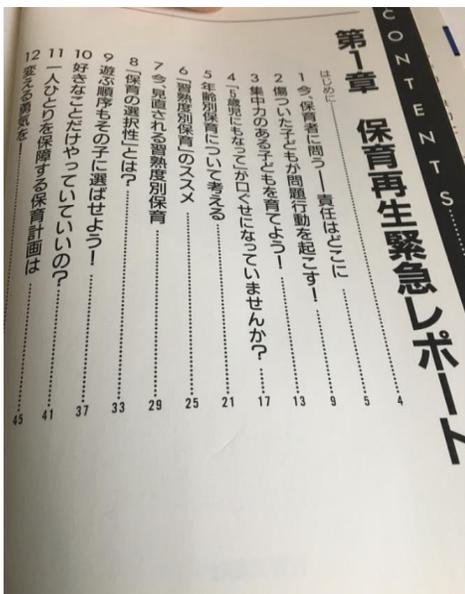
「モンテッソーリ」と「見守る保育」はどこが違うのですか？と見学者の方から質問を受けることがあるそうです。

決定的に違うところが、白紙論と有能論の考え方の違いがあり、当時の時代的背景もあり、モンテッソーリ教育は白紙論から来ており、モンテッソーリの頃は、子ども集団が地域で保障され、個々を保障しようとお仕事があったようです。

「見守る保育」は有能論から来ており、元々持っているものを引き出し、まるで、白いキャンバスに絵を描いていく内容とは異なり、出発点が違います。現代は、子ども集団が園にしかないような時代です。

オックスフォード大学のオズボーン氏の『未来の雇用__コンピューター化によって仕事は失われるか』と言う論文に、将来なくなる仕事、無くない仕事挙げられているようです。

要約すると高度なクリエイティビティ (EQ)。高度なソーシャルスキル (SQ)。EQ・SQどちらもコンピューターが出来ない仕事が残っていくと言われ、「見守る保育」は、未来の仕事を請け負う子を育て、過去の仕事で行っている保育と、未来を担っている保育とで、時代に寄り添った保育内容になっています。



「21世紀型保育のススメ」

たてわりではない異年齢児保育の章立て



写真：臥竜塾ブログ2018年3月3日「シンガポール報告5」より

●ディスカッションの進め方（シンガポール方式）

2018年6月。藤森先生がシンガポールで「見守る保育」の講演を依頼されました。講演を受けて、現地の先生方がグループディスカッションを行いました。その際のディスカッションの進め方が面白く、臥竜塾講座ではこれを「シンガポール方式」と名付け、進めていくことになりました。

●第1回 臥竜塾年間講座2019

ディスカッションのテーマ「保育者にとっての刷り込み」

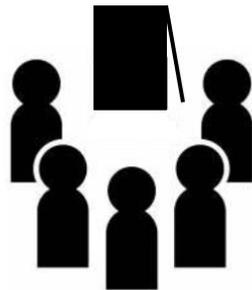
- ・エプロン=保育士のイメージ
- ・食事を「頑張って食べる」という言葉
- ・ピアノを弾けなきゃいけない
- ・デザートは最後
- ・男の先生は力持ち
- ・保育士は子育てが楽と言われる

※ディスカッションで挙がった内容の一例



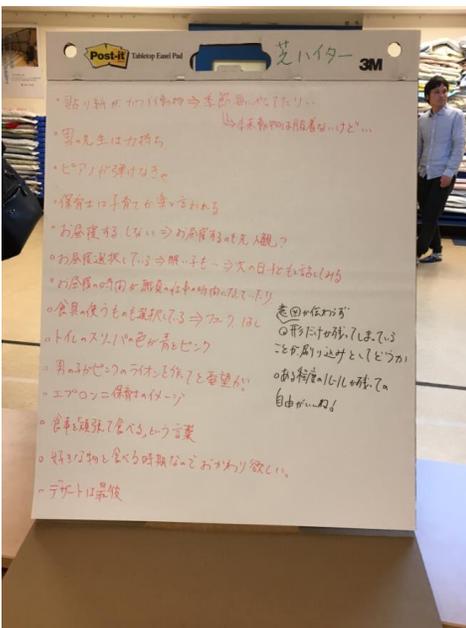
発表者が各グループを廻っていきます

①グループに分かれ、グループ名決め



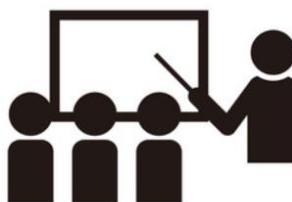
グループは1年間固定、グループ名を決め、グループごとに話し合いを行います。

テーブルには、「ポストイット イーゼルパッド」と呼ばれる、模造紙のように大きな紙で作られた、巨大な付箋に意見を書いています。



「芝ハイター」グループで挙がったメモ

②各グループの話し合いの内容の発表



各グループ2人の発表者を決め、隣のグループに移動します。グループで話し合った内容を5分で隣のグループで発表します。

そして、次のグループに移動し発表を行います。発表者は、発表を繰り返す行うことで考え方が定着していく効果が考えられているそうです。